

2024年度  
看護栄養交流センター  
成果報告書  
(第6号)



島根県立大学  
出雲キャンパス

## はじめに

本年度も看護栄養交流センターの活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。当センターは、地域住民の皆様への社会貢献活動と、看護や栄養、看護教育に携わる専門職のキャリアアップ支援を二本柱として運営しております。

地域住民の皆様には、健康増進や栄養管理に関する知識を深めていただくため、「いずも健康市民大学」を開催し、多くの方々にご参加いただきました。また、浜田市や益田市で実施した公開講座では、「生活習慣病予防」をテーマにシリーズで講座を開催いたしました。これらの講座を通じて、地域の健康意識の向上に寄与できたことを大変嬉しく思います。

専門職の皆様に対しては、キャリアアップを目指す研修や研究支援を積極的に行ってまいりました。特に、看護教育に関しては、島根県からの委託事業として、看護教員継続研修や実習指導者向けのフォローアップ研修、感染管理認定看護師教育に取り組んでまいりました。また、島根県看護協会と連携し、県内看護職の研究支援にも取り組んでおります。

感染管理認定看護師教育課程は1年間のコースで、最新の知見を取り入れた講義や演習・実習を展開し、院内の感染管理についての的確に判断・実践できる人材育成に努めてまいりました。その結果、1期生17名全員が認定審査に合格したことは、当センターの誇りです。

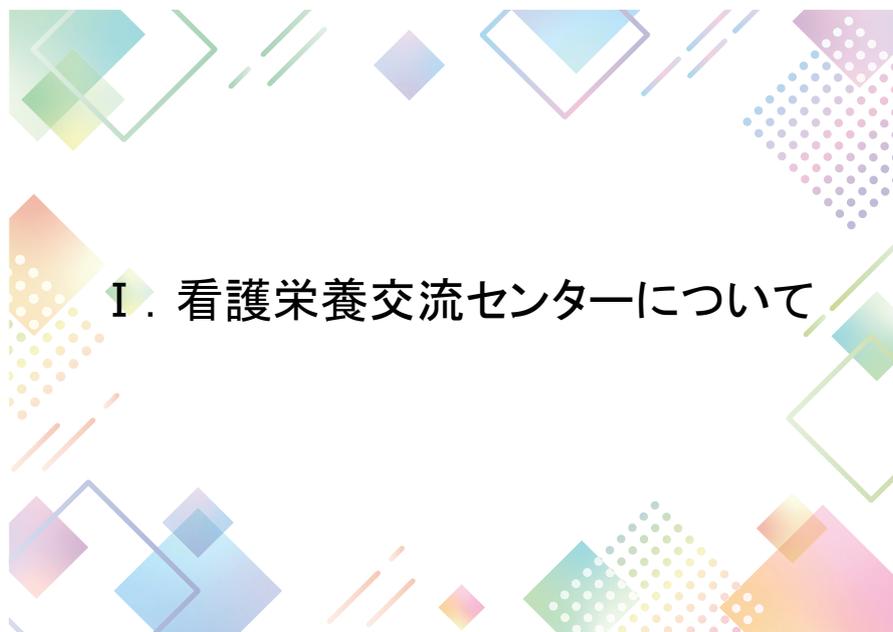
これからも、地域社会と専門職の皆様の架け橋として、より一層の努力を重ねてまいります。引き続き皆様のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和7年3月

看護栄養交流センター長 石橋照子

# 目 次

はじめに .....	1
<b>2024 年度成果報告書</b>	
<b>I. 看護交流センターについて .....</b>	<b>2</b>
1. 看護栄養交流センターの設置目的	
2. 事業概要	
3. 実施体制	
4. 看護栄養交流センター運営会議	
5. 看護栄養交流センター外部委員会	
<b>II. 2024 年度事業実績</b>	
<b>1. キャリア・研究支援部 .....</b>	<b>9</b>
1) 実践力の向上	
2) 教育力の向上	
3) 研究力の向上	
4) 保健・医療・福祉機関等との連携	
<b>2. 地域連携推進部 .....</b>	<b>23</b>
1) 生涯学習	
2) 教育機関との連携	
3) 産官学連携	
4) 広報・広聴活動	
<b>3. 認定看護師養成部 .....</b>	<b>39</b>
<b>III. 資料 .....</b>	<b>43</b>



# 1. 看護栄養交流センターについて

# I. 看護栄養交流センターについて

## 1. 看護栄養交流センターの設置目的

看護栄養交流センターは、大学と地域をつなぐ拠点として2013年10月に前身の「島根県立大学しまね看護交流センター」を設置し、2018年4月に「看護栄養学部」が設置されるのに伴い、「島根県立大学出雲キャンパス看護栄養交流センター」（以下「センター」という。）と改称した。

島根県内及び近隣地域の保健・医療・福祉の各施設、行政機関、教育機関等と連携し、保健師、助産師、看護師、管理栄養士等の質の向上に資する専門知識や技術の教授、研究活動に対する支援、研究成果等の情報収集及び発信を行うとともに、看護学及び栄養学の教育研究活動を通して得られた成果を広く地域社会に還元することを目的に、大学と地域をつなぐ拠点として設置した。

## 2. 事業概要

センターには、「キャリア・研究支援部」「地域連携推進部」「認定看護師養成部」の3つの部を設置し、大学の機能を活かした地域貢献活動を推進している。

### 1) キャリア・研究支援部

専門職（看護職、管理栄養士、栄養士）のキャリア形成、研究活動の支援ならびに研究成果を広く社会へ還元するため、以下の4つのプロジェクトを展開している。

①実践力の向上、②教育力の向上、③研究力の向上を目的とした研修事業、④保健・医療・福祉機関等への講師派遣、⑤キャリアアップを志向する社会人の学び直し等

### 2) 地域連携推進部

健康と看護をめぐる地域社会のニーズや課題に応え、地域と協働し、地域に開かれた大学を実現するため、①公開講座等の地域住民の生涯学習を支援する事業、②小中学生を対象とした出前講座や体験学習、③産官学連携、④地域の声を大学運営に活かすための広報・広聴活動等、幅広い活動を行っている。

### 3) 認定看護師養成部

緩和ケア分野及び認知症看護分野の教育課程は2020年度から休講中であったが、新たに島根県からの要請を受けて2023年度から特定行為研修を含む感染管理B課程を開講しており、1期生は17名が感染管理認定看護師（B課程）の認定審査に合格した。

## 3. 実施体制

本センターは、島根県立大学看護栄養交流センター組織運営規程に基づき運営する。

### 1) センター構成員

センターの構成員は、出雲キャンパスに所属する全ての専任教職員である。センターには、以下の職員を置く。

(1)センター長：1名（兼務）

(2)部長：3名（兼務）

(3)プロジェクトリーダー：（兼務）

(4)プロジェクトスタッフ：部長・リーダーを除く専任教員

(5)管理課地域連携推進室職員：2名（兼務）

表1 2024年度看護栄養交流センター事業担当者

部 (部長)	プロジェクト名 (プロジェクトリーダー)	事業名		担当 ○主担当
キャリア・研究支援部 (高橋梢子)	実践力の向上 (高橋梢子)	シミュレーション研修1 「静脈注射」 (島根県看護協会連携事業)		○平井由佳 佐藤基 鉦貴裕
		シミュレーション研修2 「フィジカルアセスメント」 (島根県看護協会連携事業)		○渡邊克俊 安部史子 西本亜希子
		シミュレーション研修3 「看護職のための新生児蘇生法 『専門』」		○植田恵 井上千晶 中谷陽子 永井真寿美
		助産師キャリアラダー研修 (島根県助産師会共催事業)		○濱村美和子 狩野鈴子 植田恵 並河愛弓
		SP派遣		○松本玄智江
	教育力の向上 (高橋梢子)	実習指導者養成講習会 (島根県委託事業)		※隔年開講のため 2024年度は休講
		実習指導者フォローアップ研修 (島根県委託事業)		○高橋梢子 加藤さゆり
		看護教員継続研修 (島根県委託事業)		○高橋梢子 日野雅之 板持智之
	研究力の向上 (佐藤基)	臨床看護研究計画書立案研修		○佐藤基
		研究に関する相談・支援窓口		
		個別研究支援	看護	○佐藤基
			栄養	○荒井恵美子
		共同研究	看護	○佐藤基
			栄養	○荒井恵美子
		栄養学研究支援研修 (島根県栄養士会連携事業)		○荒井恵美子
	履修証明プログラム (澤田仁美)	履修証明プログラム構築の促進と受け入れ体制の整備		石橋照子 澤田仁美
	保健・医療・福祉 機関等との連携 (佐藤基)	保健・医療・福祉機関等への講師派遣		○荒井恵美子

(部長)	プロジェクト名 (プロジェクトリーダー)	事業名	担当 ○主担当
地域連携推進部 (中谷陽子)	生涯学習 (中谷陽子)	公開講座 (一般対象・関係機関との連携講座)	○中谷陽子 荒井恵美子 園山純代
		地域・団体主催による出前講座	
		ぎんざんテレビ出前講座	
		シニア・ジュニア キャンパスツアー	
	教育機関との連携 (中谷陽子)	高大連携	○松谷ひろみ 荒井恵美子 佐藤基
		小中高校等出前講義	荒井恵美子 園山純代
		小中学校体験学習	
	産官学連携 (澤田仁美)	包括協定締結自治体との連携	○澤田仁美
		受託研究・受託事業	○澤田仁美
		NPO 法人・関係団体・企業等との連携	○佐藤基 的場好信
		各種審議会・委員会への参加	○澤田仁美
	広報・広聴活動 (中谷陽子)	キャンパスモニター会議	○中谷陽子
		県立大学発 健康寿命延伸プロジェクト in ますだ (島根県栄養士会連携事業)	○荒井恵美子
		高大社連携事業	○高橋梢子 松谷ひろみ

部 (部長)	プロジェクト名 (プロジェクトリーダー)	事業名	担当 ○主担当
認定看護師養成部 (林健司)	認定看護師 リカレント教育	フォローアップに関すること	○荒木さおり ○坂根圭子 勝部真美枝 林健司
	感染管理 認定看護師 教育課程の運営	教育課程の運営に関すること	○勝部真美枝 林健司 坂根圭子 地域連携推進室職員

#### 4. 看護栄養交流センター運営会議

島根県立大学看護栄養交流センター組織運営規程に基づき、学内の教職員を構成員とする島根県立大学看護栄養交流センター運営会議を開催し、センターの運営に関する事、事業計画の策定及び進行管理に関する事、その他センターの運営に必要なことについて協議し、2024年度は2回開催した。

##### 1) 看護栄養交流センター運営会議構成員

表2 看護栄養交流センター運営会議構成員

構成員	職名	氏名
副学長	教授	石橋 照子
看護栄養学部長	教授	大森 眞澄
看護学科長	教授	大塚 美樹
別科長	教授	狩野 鈴子
健康栄養学科長	教授	直良 博之
看護栄養交流センター長	教授	(兼) 石橋 照子
キャリア・研究支援部長	准教授	高橋 梢子
地域連携推進部長	准教授	中谷 陽子
認定看護師養成部長	准教授	林 健司
地域連携推進委員会委員長	教授	(兼) 石橋 照子
地域連携推進委員会委員	准教授	(兼) 中谷 陽子
地域連携推進委員会委員	准教授	(兼) 林 健司
地域連携推進委員会委員	准教授	(兼) 高橋 梢子
地域連携推進委員会委員	准教授	荒井 恵美子
地域連携推進委員会委員	講師	松谷 ひろみ
地域連携推進委員会委員	講師	佐藤 基
地域連携推進委員会委員	助教	園山 純代
事務部長		荒本 弘美
管理課長 (地域連携推進委員)		的場 好信
学務課長		宮苑 仁美
事務局 (管理課地域連携推進室長・地連委員)		澤田 仁美
事務局 (管理課地域連携推進室・地連委員)		矢島 史江

## 2) 看護栄養交流センター運営会議開催状況

### (1) 第1回センター運営会議

開催日：2024年5月8日（水） 13：00～13：40

場 所：Teams によるオンライン会議

出席者：16名（1名欠席）

議 事：①2024年度事業計画・事業担当者について  
②2023年度外部委員会意見に対する対応策について  
③その他

### (2) 第2回センター運営会議

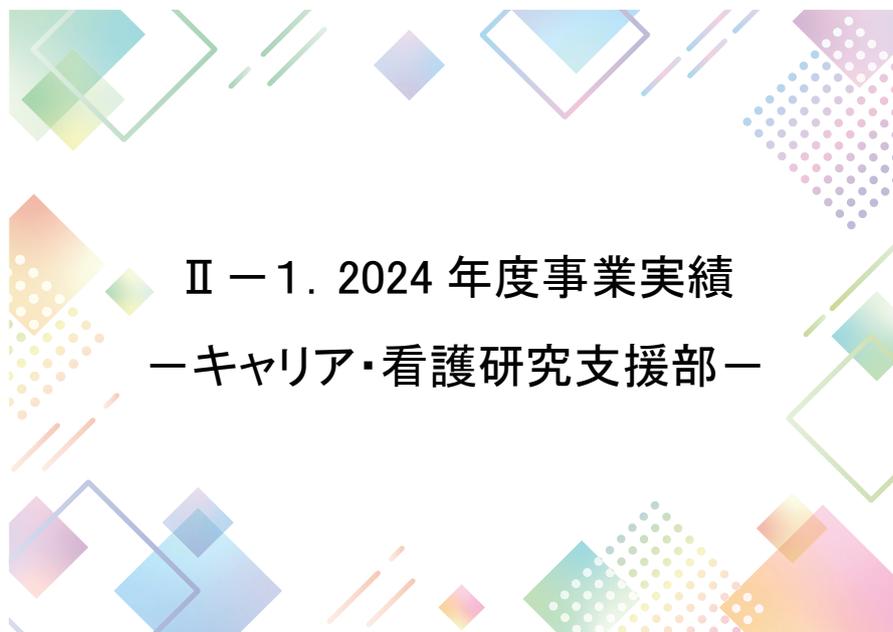
開催日：2025年3月5日（水） 10：00～10：45

方 法：Teams によるオンライン会議

出席者：13名（4名欠席）

議 事：①島根県立大学出雲キャンパス看護栄養交流センター組織運営規程の改正について  
②2024年度外部委員会の中止について  
③2024年度看護栄養交流センター事業報告について  
④2025年度事業計画について  
⑤その他





Ⅱ－1. 2024 年度事業実績  
－キャリア・看護研究支援部－

## I. 助産師キャリアラダー研修

### 1. 目的

助産師の助産実践能力を高め、ラダーに応じた知識や技術のブラッシュアップを図る。

### 2. 事業内容

助産師の卒後教育として「CLOCMiP（助産実践能力習熟段階）レベルⅢ」申請、または再申請用のプログラムを提供する。

### 3. 事業実施状況

1) 日 時：2024年9月17日（火）正午～10月31日（木）正午

2) 方 法：オンデマンド配信（講義は対面実施したものを配信）

3) 内 容：

講演1；テーマ『自治体災害時公衆衛生対策と避難所における助産師活動の準備』

◆「CLOCMiP（助産実践能力習熟段階）レベルⅢ」選択研修，開業助産師ラダー I

講 師①島根県健康福祉部 健康福祉総務課 健康危機管理・保健所支援 S 古田 恵一 氏

講 師②出雲市防災安全部防災安全課 防災係 岸 晃彦 氏

講 師③東北福祉大学健康科学部/宮城県助産師会 助産師 戸田 恭子 氏

講演2；テーマ『生涯続くマイナートラブルの予防と骨盤底筋機能の回復』

◆「CLOCMiP（助産実践能力習熟段階）レベルⅢ」選択研修，開業助産師ラダー I，  
産後ケア研修

講 師 Umito/カラダ・コンサルティング 理学療法士 山本 健太 氏

講演3；テーマ『赤ちゃんの頭の大きさ・形とおしりのくぼみ』

◆「CLOCMiP（助産実践能力習熟段階）レベルⅢ」選択研修，開業助産師ラダー I，  
産後ケア研修

講 師 島根大学医学部小児脳神経センター センター長 君和田 友美 氏

4) 対象：助産師，学生

5) 申込者：講演1；48名（県内助産師のみ），講演2・講演3；105名（県内外助産師）

6) 対面受講：学生12名

7) 修了者： 講演1 講師①；38名（県内助産師限定）

講師②；38名（県内助産師限定）

講師③；39名（県内助産師限定）

講演2 ; 79名（県外助産師35名，県内助産師38名，他6名）

講演3 ; 77名（県外助産師35名，県内助産師37名，他5名）

### 4. 成果

島根県助産師会研修会と共同で開催した。昨年度より申込者，修了者ともに微増した。新生児，乳児の頭の形のアセスメント・治療，骨盤ケアについて最新の知見を学ぶことができた。災害については，県内助産師を対象とし，地域性を考慮した内容となった。オンデマンド配信にて実施し，「CLOCMiP（助産実践能力習熟段階）レベルⅢ」，開業助産師ラダー I，産後ケア研修の位置付けとして実施し，申請・再申請に寄与した。

### 5. 課題

オンデマンド配信のための編集作業に時間がかかるため，方法などを検討する時期に来ている。助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー/CLOCMiP®レベルⅢの認証制度，開業助産師ラダー I，産後ケア研修は，受講項目が多く受講ニーズの高い研修である。助産師職能団体との共催により，広く参加者を募ることができるが，さらに効果的な広報活動を検討する。

## II. 新生児蘇生法 (NCPR) 「スキルアップコース」

### 1. 目的

国際水準に拠った、より安全でより効果的な蘇生法を身に付け、医療体制の充実につなげる。

### 2. 事業内容

【看護職のための新生児蘇生法研修】スキルアップコース

新生児蘇生法 (NCPR) 「スキルアップコース (S コース)」についての講義・演習を行った。本プログラムを受講し、申請により専門学会にて資格更新の認定を受けることができる。

### 3. 事業実施状況

- 1) 日 時：2025年1月25日（土） 9時00分から12時15分
- 2) 場 所：島根県立大学出雲キャンパス 103 実習室
- 3) 講 師：植田恵, 井上千晶, 中谷陽子
- 4) 対 象：新生児蘇生に関わる専門性の高い看護職
- 5) 参加者：4名

### 4. 成果

以前は新生児蘇生法の専門コース (A コース) を開催していたが、分娩取り扱う施設でAコースが開催されていることなどから受講者が減少していた。今回は資格更新に必要となるスキルアップコース (S コース) を開催し、7名の応募があった。体調不良等の理由で、受講予定者が4名となったが、しっかりとサポートしながら演習に取り組むことができた。シナリオ演習では、重症な状態で出生する児を想定したシミュレーションに取り組み、短時間で判断することや確実な人工呼吸の手技について確認することができた。

### 5. 課題

今回5年ぶりにNCPR研修を開催するにあたって近隣のクリニック等にニーズを確認した結果、Sコース受講の要望が多かった。島根県内でのNCPRの講習会は、各施設で行っているところが増えていくが、自施設での開催が難しい場合もあり、県内のニーズを反映させながら次年度以降の研修会を計画していく。また体調不良でのキャンセルが多かったため、研修会の開催時期も必要があれば検討していく。



### Ⅲ. SP 派遣

#### 1. 目的

島根県内に従事する看護職等が、場に応じた的確な臨床判断、確実な援助行為が行えるよう、臨床現場におけるシミュレーション教育を支援するための環境の整備を行う。

#### 2. 事業内容

本学の SP（模擬患者）養成講座を修了した SP の派遣・調整を行う。また、医療施設においてシミュレーション教育を実施する際、模擬患者派遣に関するサポートを行う。

#### 3. 事業実施状況

科目名等	月日	人数
看護学科：基礎看護統合実習（事例）	2024年6月17日	5名
	2024年6月24日	3名
	2024年7月1日	5名
	計	13名

#### 4. 成果

看護栄養学部看護学科の演習に模擬患者を派遣することができた。SP 参加による演習に対しては学生からも高い評価が得られた。

#### 5. 課題

今年度は1科目のみの活用であった。模擬患者参加型の演習は教育効果が高いといわれているが、新たに演習を計画・準備することは時間がかかるため、新たな演習での活用に結びつきにくいことが考えられる。しかし、引き続き安定した SP 派遣ができるように準備していく必要がある。安定的な SP 派遣が継続できるために、本学の SP（模擬患者）養成講座の充実と修了者のフォローアップを行い、SP の質の維持・向上が課題である。「しまね模擬患者の会」と連携して事業を実施していくこととする。

## I. 実習指導者フォローアップ研修

### 1. 目的

看護職員実習指導者養成講習会受講修了者が、臨床で実習指導を担当している中で自己の課題を明確にし、看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるよう必要な知識・技術を修得させ、もって実習指導者の資質の向上と看護実習の強化を図ることを目的とする。実習指導者としての資質向上を図り、看護学実習の一層の充実を図る。

### 2. 事業内容

「島根県実習指導者フォローアップ研修事業」を島根県より委託を受け、研修会の企画・運営・実施した。研修は、指導場面を事例検討により振り返り、グループディスカッションを経て、指導観の再構築を図った。

### 3. 事業実施状況

- 1) 日時：2025年1月25日（土） 10:00～16:00
- 2) 場所：浜田医療センター附属看護学校
- 3) 講師：上井 靖氏（A-sessions 代表）
- 4) 参加者：島根県内の病院・施設等の実習指導者 19名

### 4. 成果

今年度は「みんな違ってみんないい！～価値の多様性に振り回されない対応を身につけるには？～」というテーマで、多様性のある学生への関わり方について、体験を通して学んでいった。また、看護教員継続研修との同時開催という初の試みもあった。研修参加者の満足度は高く、看護教員との意見交換もできたことが有意義であった。

### 5. 課題

看護教員継続研修との同時開催の兼ね合いで、開催地が浜田であった。参加者は電車の都合で2時間待つことが発生しており、開始時刻は電車の時刻を参考にする必要があった。



## II. 島根県看護教員継続研修

### 1. 目的

看護教員のキャリアアップを支援する事業として、看護教員としての資質・能力の向上を図り、看護基礎教育の一層の充実を図る。

### 2. 事業内容

島根県より「島根県看護教員継続研修」の委託を受け、研修会の運営・実施（企画担当／県）を行った。研修は、全ての看護教員を対象とした『組織力を高める研修』、『教育力を高める研修』を実施した。

### 3. 事業実施状況

#### 教育力を高める研修

- 1) 日 時：2024年8月3日（土）10：00～16：00
- 2) 場 所：出雲医療看護専門学校
- 3) 講 師：津波古 澄子氏（京都看護大学教授）
- 4) テーマ：「コンセプトに基づく学習の基本と利点～情報をつなぐ力を育む～」
- 5) 対 象：島根県の看護教員
- 6) 参加者：看護教員 23 名

#### 組織力を高める研修

- 1) 日 時：2025年1月25日（土）10:00～16:00
- 2) 場 所：浜田医療センター看護専門学校
- 3) 講 師：上井 靖氏（A-sessions 代表）
- 4) テーマ：みんな違ってみんないい！～価値の多様性に振り回されない対応を身につけるには？～
- 5) 対象者：島根県の看護教員
- 6) 参加者：看護教員 21 名

### 4. 成果

当初、組織力を高める研修は8月開催予定であったが、台風の影響で1月に延期となった。両研修とも参加者の満足度は高かった。今年度は、実習指導者フォローアップ研修会と同時開催であったが、指導者と意見交換できたことは有意義であった。

### 5. 課題

年に2回、同じ時期に2回あることで運営の負担が課題である。開催方法について、今後検討の必要がある。



### Ⅲ. 出雲市 児童虐待防止推進研修事業

#### 1. 目的

今年度の目的は、子ども虐待とヤングケアラーを取り上げ、支援者だけでなく一般市民もその問題を適切に認識することで、子どもを見守る人を増やしていけるよう啓発を図ること、また、全ての子どもが地域で安心・安全に生活するために、子ども虐待やヤングケアラーが生じる家庭の状況や実際に支援している人の活動をもとに、発生予防からの切れ目のない支援や一般市民を含めた関係者・関係機関の連携、地域づくりについて学び、講座の参加者一人ひとりがそれぞれの立場から支援の一步を踏み出す機会とする。

#### 2. 事業内容

出雲市要保護児童対策地域協議会（事務局；出雲市役所子ども未来部）と島根県立大学出雲キャンパス（教員7名）の協働による「児童虐待防止と対応講座」の企画・運営を行った。対象は、一般市民、保健医療福祉関係者、教育関係者、行政関係者、民生委員、学生である。

#### 3. 事業実施状況

表 プログラム概要と参加者数

会場：島根県立大学出雲キャンパス

	第1回	第2回
日時	2024年9月22日（日）10：00～12：30	2024年11月16日（土）13：30～16：00
テーマ	子どもの虐待防止における支援体制の構築	ヤングケアラー支援のために私たちにできること
内容	<p>【講演】 「子ども虐待防止のための切れ目のない支援～フィンランドのネウボラからの示唆」 ・講師：高橋 睦子氏 （恵泉女学園大学人間社会学部国際社会学科 教授）</p> 	<p>【講演】 「ヤングケアラー支援・私たち一人ひとりができること～尼崎ティーンズ応援ネットワークの取り組み～」 ・講師：黒光 さおり氏 （社会福祉士、公認心理師、特別支援教育士、保育士、スクールソーシャルワーカー）</p> <p>【パネルディスカッション】 「ヤングケアラーを支えるために地域で何ができるのか」 ・「出雲市のヤングケアラー支援」 今若 眞未 氏（出雲市役所子ども政策課子ども家庭相談室 室長） ・「コネクトほーむの取り組み」 井上 恵理子 氏（コネクトほーむ代表、介護福祉士）</p>
参加者数	67名	74名

#### 4. 成果

参加者の満足度は第1回、2回ともに高く、有意義な内容であったと考える。第2回研修会のパネリストの井上氏は、昨年の本研修会への参加をきっかけに『コネクトほーむ』の立ち上げに踏み切ったとのことで、研修会が支援活動開始のきっかけになったという事実がある。また、テーマ設定により参加者層に変化が見られ、新しい参加者を増やす効果があったと思われる。今年度は、チラシを例年よりも多く配布した。チラシそのものが、児童虐待やヤングケアラーの周知につながったと考える。

#### 5. 課題

- 1) 研修会の目的として地域のネットワーク構築（一般市民を含めた関係者・関係機関の連携）があるが、研修会がネットワーク構築の機会になっていない現状である。研修会の中で、参加者同士がつながることができる機会を設けることも視野に入れて企画する。
- 2) 研修会参加者として、今年度は民生委員の参加が少なかった。また、児童相談所や学校関係者も近年少ない状況である。研修会の内容によって、参加を期待する職種等があるので、その方々が参加しやすい時期や案内方法等を検討する。

## I. 看護研究力の向上(個別研究支援・看護)

### 1. 目的

研究テーマや必要とする支援内容に応じて指導教員をコーディネートし、立案された看護研究計画に基づき、個別的で継続した研究指導を行い、研究実施につなげる。

### 2. 事業内容

原則として「臨床看護研究計画書立案研修」を受け、研究計画が立案できており、実際に看護研究を行う予定の個人またはグループ(1課題)を対象とし、研究テーマや必要とする支援内容に応じて指導教員をコーディネートし、研究実施につなげる。

### 3. 事業実施状況

今年度、継続2件、新規3件の個別研究支援を行った。

### 4. 成果

研究指導により研究を遂行し、学術集会での研究発表に繋がった。

### 5. 課題

本事業は臨床看護研究計画書立案研修を受講し、研究計画書が完成している人を対象にしており、引き続き支援希望者のニーズに沿った臨床看護研究計画立案研修のあり方と研究指導について検討が必要である。

## Ⅱ. 栄養に係る専門職の研究力の向上(個別研究支援・健康栄養)

### 1. 目的

管理栄養士・栄養士等の研究活動を支援することを目的に、相談に応じた総合的な研究支援を行い、実践現場における問題解決に直結した研究支援を実施する。

### 2. 事業内容

申請条件は特に設けず、病院、施設、行政、企業等の各現場で活動する管理栄養士・栄養士等の研究テーマや必要とする支援内容に応じて、個別指導を行う。

### 3. 事業実施状況

今年度、新規の個別研究申請はなかった。

### 4. 課題

各現場における本事業の認知度が低いため、ホームページ等による積極的な広報活動を実施し、個別研究申請の増加に繋げることが必要である。

### Ⅲ. 看護研究力の向上(共同研究・看護)

#### 1. 目的

研究テーマに応じ、共同研究を行う教員をコーディネートして研究を推進する。

#### 2. 事業内容

原則として、研究計画が立案できており、実際に研究を行う予定の個人またはグループ(1課題)が対象とし、研究テーマや必要とする支援内容に応じて指導教員をコーディネートし、研究実施につなげる。

#### 3. 事業実施状況

今年度、新規の共同研究申し込みはなかった。

#### 4. 課題

各現場での本事業の認知度が低く、研究支援の申し込みに繋がっていないため、ホームページ等による積極的な事業のPRや、効果的な周知方法、共同研究の可能性等についての検討が必要である。

#### IV. 栄養に係る専門職の研究力の向上(共同研究・健康栄養)

##### 1. 目的

研究テーマに応じて、共同研究を行う教員をコーディネートして研究を推進する。

##### 2. 事業内容

病院，施設，行政，企業等の各現場で活動する管理栄養士・栄養士の研究ニーズに応じて，教員が研究活動に参画する。

##### 3. 事業実施状況

今年度は、指導すべき新規の共同研究申請はなかった。

##### 4. 課題

共同研究の申請が少ないことから，本事業についての積極的な周知と同時に，共同研究への可能性等について検討を進めていく必要がある。

## I. 履修証明プログラム

### 1. 目的

大学が集積している知を活かして、看護栄養学部（看護学科・健康栄養学科）、研究科、別科、看護栄養交流センター等が構築した履修証明プログラム（60 時間以上）を周知し、キャリアアップを志向する受講者の学習支援を行う。

### 2. 事業内容

社会人を対象とし、大学等の教育・研究資源を活かし一定の教育計画の下に編成された、体系的な知識・技術等の習得を目指した教育プログラムを構築し、社会人等の多様なニーズに応じた様々な学習機会を提供する。プログラム修了者に対しては、大学から履修証明書を交付する。

### 3. 事業実施状況

履修証明プログラム制度は、昨年度秋季から開始した。「食品の機能分析の活用及び研究・実践プログラム」について受講中である。

### 4. 課題

昨年度から、看護学研究科主体のプログラムからスタートしたが、看護栄養交流センター独自のプログラムの編成や、学部や別科主体のプログラム等も進めたいと考える。プログラムの認知度を上げるため、積極的な事業のPRなど、効果的な周知を行っていく。

## I. 保健・医療・福祉機関等への講師派遣

### 1. 目的

病院等からの依頼に応じ、本学教員のもつ専門的知識や技術及び研究成果である「知」を提供する。

### 2. 事業内容

保健・医療・福祉機関等への講師派遣依頼に対する対応および講師の調整

### 3. 事業実施状況および成果

2024年度の保健・医療・福祉機関への講師派遣の実施状況一覧を表に示した。

2024年度の講師派遣の実績は65件であった。依頼元種別をみると、医療機関22件、職能団体22件、その他14件であった。

### 4. 課題

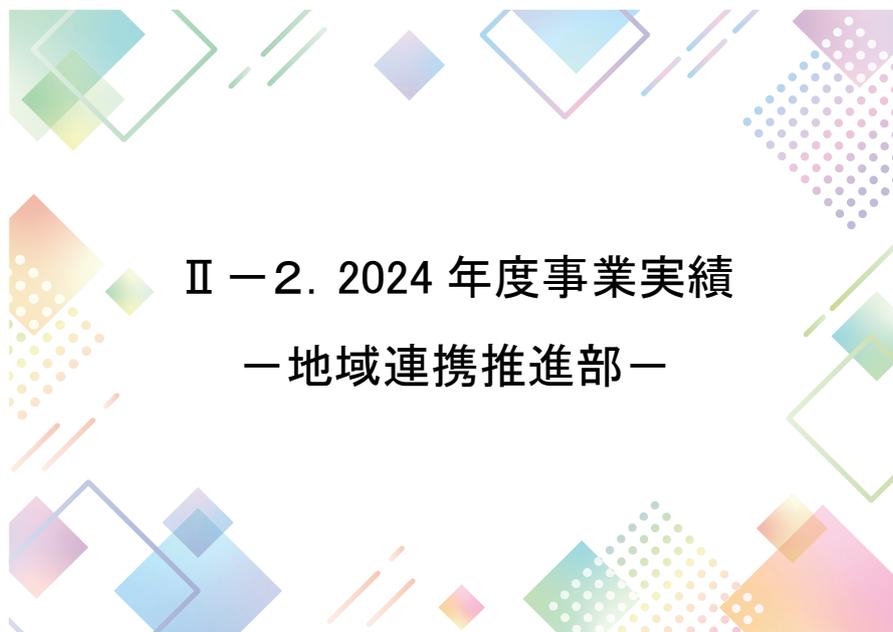
講師派遣依頼は、コロナ禍を経て対面開催へのニーズが高まっており、教育研究活動とのバランスが課題である。

#### 講師派遣実施状況一覧

	依頼元種別	実施日	依頼元	内容	担当者
1	医療機関	5月9日	島根県立中央病院	看護研修 講師	岡安誠子教授
2	医療機関	5月21日	浜田医療センター	看護研究指導	川瀬淑子教授
3	医療機関	5月28日	松江医療センター	看護研究指導	高橋梢子准教授
4	医療機関	6月1日	島根県済生会江津総合病院	看護研究指導 研修講師	高橋梢子准教授
5	医療機関	6月1日	島根県済生会江津総合病院	看護研究指導 研修講師	平井由佳准教授
6	医療機関	6月11日	島根県立中央病院	臨床実習指導者研修 講師	川瀬淑子教授
7	医療機関	7月4日	島根県立中央病院	看護研究指導 講師	岡安誠子教授
8	医療機関	7月20日	隠岐広域連立立隠岐病院	看護研究研修会 講師	田原啓子准教授
9	医療機関	8月20日	浜田医療センター	看護研修指導	川瀬淑子教授
10	医療機関	9月10日	島根県立中央病院	看護研究計画書・看護研究論文指導	岡安誠子教授
11	医療機関	9月17日	松江医療センター	看護研修 講師	高橋梢子准教授
12	医療機関	9月20日	島根県立中央病院	看護研修 講師	高橋梢子准教授
13	医療機関	9月26日	日野病院組合日野病院	リフレクション研修 講師	西本亜希子講師
14	医療機関	10月4日	出雲市立総合医療センター	看護研究発表会 講師	佐藤美紀子准教授
15	医療機関	11月19日	松江医療センター	看護研修 講師	高橋梢子准教授
16	医療機関	12月14日	隠岐広域連立立隠岐病院	看護研修 講師	田原啓子准教授
17	医療機関	12月17日	浜田医療センター	看護研究 講師	川瀬淑子教授

18	医療機関	2月3日	浜田医療センター	看護研究 講師	川瀬淑子教授
19	医療機関	2月10日	島根県立中央病院	看護研修 講師	永井真寿美講師
20	医療機関	2月21日	島根県立こころの医療センター	看護研究 講師	日野雅洋助教
21	医療機関	3月1日	隠岐広域連立立隠岐病院	看護研修 講師	田原啓子准教授
22	医療機関	3月14日	島根県済生会江津総合病院	看護研究 講師	高橋梢子准教授
23	職能団体	6月1日～	島根県助産師会	バースディプロジェクト	植田恵助教
24	職能団体	6月1日～	島根県助産師会	バースディプロジェクト	並河愛弓助教
25	職能団体	6月22日	島根県看護協会	研修会 講師	籠橋有紀子教授
26	職能団体	7月13日	島根県看護協会	学術集会 講師	松谷ひろみ講師
27	職能団体	8月19日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 講師	川瀬淑子教授
28	職能団体	8月19日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 講師	濱村美和子准教授
29	職能団体	8月19日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 講師	佐藤美紀子准教授
30	職能団体	8月19日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 講師	佐藤基講師
31	職能団体	8月19日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 講師	松谷ひろみ講師
32	職能団体	8月19日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 講師	日野雅洋助教
33	職能団体	8月19日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 講師	荒木さおり助教
34	職能団体	8月20日	島根県看護協会	教育担当者研修会 講師	岡安誠子教授
35	職能団体	8月20日	島根県看護協会	臨床看護研究計画立案研修 講師	並河愛弓助教
36	職能団体	8月27日	島根県看護協会	教育担当者研修会 講師	高橋梢子准教授
37	職能団体	9月6日	島根県看護協会	臨床看護研究研修 講師	佐藤美紀子准教授
38	職能団体	11月9日	島根県看護協会	研修会 講師	大森眞澄教授
39	職能団体	11月9日	島根県看護協会	研修会 講師	松谷ひろみ講師
40	職能団体	11月16日	島根県看護協会	看護倫理研修 講師	高橋梢子准教授
41	職能団体	11月16日	島根県看護協会	研修会 講師	高橋梢子准教授
42	職能団体	12月18日	島根県看護協会	研修会 講師	加藤典子准教授
43	職能団体	12月23日	島根県看護協会	研修会 講師	高橋梢子准教授
44	職能団体	1月23日	島根県看護協会	研修会 講師	高橋梢子准教授
45	その他	6月6日	ヘルスサイエンスセンター島根	講演 講師	横山淳美講師
46	その他	7月24日	島根県教育センター	新規採用養護教諭研修 講師	渡邊克俊講師
47	その他	7月24日	島根県教育センター	新規採用養護教諭研修 講師	佐藤基講師
48	その他	7月25日	介護労働安定センター	認知症研修 講師	荒木さおり助教
49	その他	8月16日	大妻女子大学管理栄養士・栄養士スキルアップセンター	研修会 講師	渡邊克俊講師
50	その他	9月1日	出雲市	生涯学習講座 講師	渡邊克俊講師

51	その他	1月29日	島根県教育庁	講演 講師	渡邊克俊講師
52	その他	2月10日	地域・教育魅力化プラットフォーム	しまね探求フェスタ 2024・サポーター	中谷陽子准教授
53	その他	2月10日	地域・教育魅力化プラットフォーム	しまね探求フェスタ 2024・サポーター	中川忠彦講師
54	その他	2月13日	介護労働安定センター	認知症研修 講師	荒木さおり助教
55	その他	2月18日	出雲市	講演会 講師	荒木さおり助教
56	その他	2月19日	介護労働安定センター	認知症研修 講師	荒木さおり助教
57	その他	3月11日	隠岐の島町社会福祉協議会	研修会 講師	荒木さおり助教
58	その他	3月12日	介護労働安定センター	研修会 講師	加藤典子准教授



## Ⅱ－2. 2024 年度事業実績

－地域連携推進部－

**プロジェクト名：生涯学習****I. 公開講座****1. 目的**

本学がもっている専門的、総合的な教育・研究機能を広く社会に公開することにより、健康に関する知識・技術及び一般的教養を身につけるための学習の機会を社会人等に広く提供する。

**2. 事業内容**

公開講座は4講座、いずれも健康市民大学は8講座を開講した。今年度も対面で開催した。

また、2024年度は、浜田市・益田市においても生活習慣病予防をテーマにした講座を各5講座実施した。

**3. 事業実施状況** (表1, 表2, 表3)

公開講座、いずれも健康市民大学の終了時にアンケートを実施した。

**4. 成果**

いずれも健康市民大学は30名の参加があった。23名が7割以上の講座を受講し修了証の授与対象となった。受講者は熱心に参加され、受講者アンケートの満足度も高かった。

**5. 課題**

受講者募集チラシを4月上旬に発送したが、募集までのスケジュールがタイトであるため、第1回講座の開催日をもう少し遅めに設定するとよい。

受講者の年代は、60～70歳代が中心であった。若い世代の参加を求めるのであれば、開催曜日や時間、講座内容の検討が必要である。出雲市と共催で行っているため、市報に掲載するなどして広報の充実を図りたい。

表1 2024年度公開講座実施状況

	テーマ	開催日時	講師	定員	受講者数
1	お母さんと赤ちゃんのための出産前後のマタニティクラス ～心と体を温める講座～ 第1回 心と体を温めておなかの赤ちゃんと一緒にリラックス（妊娠期）	令和6年6月24日（月） 10：00～11：30	並河愛弓 井上千晶	10名	4名
2	お母さんと赤ちゃんのための出産前後のマタニティクラス ～心と体を温める講座～ 第2回 心と体を温めて分娩中の陣痛と上手に付き合うリラックス法（妊娠期）	令和6年8月21日（水） 10：00～11：30	中谷陽子 井上千晶	10名	4名
3	アロマで心と体のリフレッシュPart. 16	令和6年9月13日（金） 14：00～16：00	松本玄智江	24名	23名
4	お母さんと赤ちゃんのための出産前後のマタニティクラス ～心と体を温める講座～ 第3回 心と体を温めるベビーマッサージ（出産後）	令和6年11月20日（水） 10：00～11：30	井上千晶 中谷陽子 永井真寿美	10組	7組

表2 2024年度いずも健康市民大学実施状況 受講者30名

	講師	開催日	講座テーマ	出席者数
第1回	副学長 石橋照子	5月9日(木)	開講式	27
	松谷ひろみ		ストレスをしなやかに乗り越えるメンタルヘルス講座	
第2回	平井由佳	6月4日(火)	口腔の清潔と高齢者の食事	25
第3回	荒井恵美子	6月20日(木)	噛むこと、飲み込むことが難しい高齢者の食事	24
第4回	直良博之	7月23日(火)	食と健康にかかわる最近のトピックス パート1	20
	川谷真由美			
第5回	中川忠彦	8月6日(火)	食と健康にかかわる最近のトピックス パート2	20
	石田千津恵			
第6回	籠橋有紀子	8月29日(木)	心理と食の関係 パート5 ～形について～	24
第7回	佐藤美紀子	9月10日(火)	高血圧症の予防と管理	21
第8回	加藤典子	10月24日(木)	訪問看護について	24
	副学長 石橋照子		閉講式	

表3 2024年度 浜田市・益田市での公開講座実施状況(浜田市:65名, 益田市57名)

浜田市	講師	開催日	講座テーマ	出席者数
第1回	山下一也	4月20日(土)	生活習慣病の概要とリスクファクター	11
第2回	横山淳美	5月12日(日)	睡眠と生活習慣病	4
第3回	亀山良子	5月26日(日)	食生活と生活習慣病	20
第4回	横山淳美	6月16日(日)	嗜好品(タバコ・お酒)と生活習慣病	12
第5回	石橋照子	6月23日(日)	ストレスと生活習慣病	18
益田市	講師	開催日	講座テーマ	出席者数
第1回	山下一也	4月27日(土)	生活習慣病の概要とリスクファクター	10
第2回	横山淳美	5月11日(土)	睡眠と生活習慣病	14
第3回	亀山良子	5月25日(土)	食生活と生活習慣病	15
第4回	横山淳美	6月15日(土)	嗜好品(タバコ・お酒)と生活習慣病	7
第5回	石橋照子	6月22日(土)	ストレスと生活習慣病	11

## II. 地域、団体主催による出前講座

### 1. 目的

本学の専門的、総合的な教育・研究機能を幅広く社会に公開するため、地域や各種団体からの依頼に対応し、看護・栄養に関する知識・技術及び一般教養を身につける学習の機会を提供する。

### 2. 事業内容

看護栄養交流センター窓口への講師派遣依頼に対応し、希望テーマや教員、条件などを詳細に聞き取りした後で出雲キャンパス教員の中から適任者を選び、承諾を得た後、依頼者に紹介する。出前講座の実施状況について、講座担当教員に実施報告書の提出を求める。次年度に開講可能な一般向けテーマ登録の募集を行い、一覧をホームページに掲載する。

### 3. 事業実施状況

個別に問い合わせのあった団体等へ担当職員が講師派遣のコーディネートを行った。講師の派遣依頼は、2024年4月から2025年3月まで継続的にあり、看護栄養交流センター地域連携推進部にて出前講座の依頼を受け付けた。

2025年度の準備として、地域貢献登録カードにより教員から開催可能なテーマの事前登録を募り、提出されたテーマを一覧表にした。

### 4. 成果

2024年度は、24件の出前講座を実施した。依頼元は、地域のコミュニティセンターやNPO法人等があり、内容は、健康維持、防災、介護予防が多数を占めた。出前講座が地域や各種団体に対し、健康や看護・栄養に関する知識や技術などを学ぶ機会として期待されている状況がうかがえる。

### 5. 課題

地域や団体からの依頼が減ったため、昨年度と比較し講座の開催数が減少した。

地域からの希望テーマに偏りがあり特定の教員に依頼が集中したり、教員の専門分野とは直接かわりがないテーマで依頼されたりした。

出前講座に対応可能な教員の増、依頼元への他の講師や関連するテーマの紹介などの調整により、特定の教員に過度な負担がかかることのないようにする必要がある。

表5 2024年度 地域連携推進部 出前講座実施一覧

No.	教員名	実施日		依頼元	内容
		月	日		
1	亀山 良子	1	24	川跡長生会連合会	高齢者の食事と健康についての講演会講師
2	加藤 典子	3	12	(公財) 介護労働安定センター島根支部	「医学的知識の習得」研修会講師
3	中谷 陽子	2	10	(一財) 地域・教育魅力化プラットフォーム	しまね探求フェスタ2024におけるサポーター
4	林 健司	11	6	すこやかクラブ	ロコモ予防講座
5	祝原 あゆみ	12	19	特定非営利活動法人なないろネット	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」講師
6	祝原 あゆみ	12	23	特定非営利活動法人なないろネット	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」講師
7	小川 智子	1	16	特定非営利活動法人なないろネット	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」講師
8	小川 智子	1	20	特定非営利活動法人なないろネット	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」講師
9	加藤 さゆり	3	6	特定非営利活動法人なないろネット	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」講師
10	加藤 さゆり	3	17	特定非営利活動法人なないろネット	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」講師

11	中川 忠彦	2	10	(一財) 地域・教育魅力化プラットフォーム	しまね探求フェスタ 2024 におけるサポーター
12	松谷 ひろみ	2	10	(一財) 地域・教育魅力化プラットフォーム	しまね探求フェスタ 2024 におけるサポーター
13	渡邊 克俊	6	15	湖陵コミュニティセンター	熱中症講演会講師
14	渡邊 克俊	9	1	出雲市	出雲市生涯学習講座 (防災対策講座) 講師
15	渡邊 克俊	9	14	川跡コミュニティセンター	防災講演会講師
16	渡邊 克俊	10	12	川跡コミュニティセンター	防災講演会講師
17	渡邊 克俊	10	25	直江地区災害対策委員会	防災講演会講師
18	荒木 さおり	1	26	灘分地区社会福祉協議会	認知症講演会講師
19	荒木 さおり	2	18	出雲市	在宅医療座談会講師
20	荒木 さおり	2	20	特定非営利活動法人なないろネット	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」講師
21	荒木 さおり	3	11	隠岐の島町社会福祉協議会	認知症をテーマとしたサロンのつどいの講師
22	荒木 さおり	3	24	特定非営利活動法人なないろネット	介護予防・日常生活支援総合事業「なないろ教室」講師
23	板持 智之	7	17	すこやかクラブ	セラバンド体操教室講師
24	福田 詩織	7	28	出西コミュニティセンター	「出西地区健康まつり」健康講演会講師

### Ⅲ. ぎんざんテレビ出前講座

#### 1. 目的

石見銀山テレビ放送が放映する出前講座を通して、島根県立大学教員が、地域住民が健やかな生活を送るために役立つ幅広い知識を普及することにより、地域に貢献する。

#### 2. 事業内容

本事業は2010年から開始された。収録担当教員は出前講座の台本またはPPTスライド資料を作成し、それらをもとに収録を行う。収録後テレビ局で編集されたデータが大学に送付されるので、収録担当教員は内容を確認し修正があればテレビ局にその旨を伝える。収録担当教員の承諾後講座が放映となる。放映時間は約5分である。

#### 3. 事業実施状況

表 ぎんざんテレビ出前講座担当一覧

		講座タイトル	担当者	学生参加	収録時期
看護	授業紹介	お口ピカピカ、体もシャンシャン！ －生活援助方法論Ⅱ（1年次）での学び－	高橋梢子	3名	4月4日（木） 15:00～ 216 実習室
	授業紹介	赤ちゃんの観察をしてみよう －母性看護学援助論（3年次）での学び－	中谷陽子	2名	4月5日（金） 13:30～ 214 実習室
	サークル紹介	献血サークル「あかえんぴつくん」の活動報告	渡邊克俊	5名	4月5日（金） 10:00～ 北会議室
健康栄養	授業紹介	自分の食生活と身体の評価をしてみよう！ －栄養管理学実習（3年次）での学び－	澤幸子	5名	4月18日（木） 13:10～ 240 実習室
	授業紹介	大田圏域の高血圧予防について考えよう！ －公衆栄養学実習（3年次）での学び－	中畑典子	4名	4月5日（金） 15:00～ 233 演習

#### 4. 成果

表に示す通り、今年度は看護学科3講座、健康栄養学科2講座の計5講座を放映した。前年度の終わりから年度初めに収録予定を立て、計画通りに実施した。収録日と場所は担当教員の希望に沿って収録することができた。本講座は、ぎんざんテレビ放送エリアの病院、薬局、金融機関、役所の待合での放映をはじめ出演学生の地元局にも配信された。昨年度に引き続き学生の出演機会があり、とても好評である。

#### 5. 課題

次年度以降も地域のニーズに合わせた講座の内容や数を検討していく。また、情報配信に配慮し可能な範囲で学生との共同番組を計画し、より学生を身近に感じてもらえるような番組作りを検討していく。

## プロジェクト名:教育機関との連携

### I. 小中高校等出前講義

#### 1. 目的

小中高校生のための保健医療福祉に関する講義の依頼に応じる。

#### 2. 事業内容

センターあるいは教員に小中高校から講師依頼があった場合、講師を調整し講義を実施した。

#### 3. 事業実施状況

表1 2024年度 小中高校等出前講義実施一覧

No.	教員名	実施日		依頼元	内容
		月	日		
1	石橋 照子	10	8	吉賀町立六日市中学校	学校保健委員会講演会 講師
2	岡安 誠子	7	29	島根県立出雲高等学校	山陰探究サミット審査員
3	小田 美紀子	7	12	出雲市立須佐保育所	保護者対象の講演会 講師
4	小田 美紀子	7	16	島根県教育庁保健体育課	子どもの健康づくり事業講演会講師（中学生対象）
5	籠橋 有紀子	7	29	島根県立出雲高等学校	山陰探究サミット審査員
6	籠橋 有紀子	10 3	1~ 31	島根県立出雲高等学校	課題研究指導・助言
7	狩野 鈴子	7	11	島根県立出雲農林高等学校	性に関する講演会 講師
8	狩野 鈴子	11	1	出雲市立第二中学校	性に関する講演会 講師
9	狩野 鈴子	11	7	出雲市立西野小学校	「いのちの尊さ性・生」講演会 講師
10	狩野 鈴子	11	19	島根県立出雲工業高等学校	性に関する講演会 講師
11	狩野 鈴子	1	28	出雲市立神西小学校	「思春期にあらわれる心と体の変化」講師
12	加納 尚之	10 3	1~ 31	島根県立出雲高等学校	課題研究指導・助言
13	直良 博之	3	27	島根県教育庁教育指導課	「栄養学」体験プログラム講師（高校生対象）
14	荒井 恵美子	3	27	島根県教育庁教育指導課	「栄養学」体験プログラム講師（高校生対象）
15	高橋 梢子	11	14	島根県立出雲高等学校	出雲高校プロフェッショナルセミナー 講師
16	高橋 梢子	12	10	島根県立出雲高等学校	出雲高校プロフェッショナルセミナー 講師
17	谷村 綾子	5	28	島根県立平田高等学校	地域協働学習 講師
18	谷村 綾子	9	10	島根県立平田高等学校	地域協働学習 講師
19	田原（阿川）啓子	7	22	島根県立大東高等学校	総合的な探究の時間 講師
20	田原（阿川）啓子	7	23	島根県立松江南高等学校	「南高アクションデー アクション・クエスト2024」での指導・助言
21	林 健司	10	24	益田市立美都中学校	アンガーマネジメント講演会 講師

22	林 健司	11 2	1~ 18	(一社) エンター	島根県立三刀屋高等学校雲南式探求プログラム専門アドバイザー
23	加藤 さゆり	5	28	島根県立平田高等学校	地域協働学習 講師
24	中川 忠彦	3	17	島根県立出雲高等学校	出雲高校プロフェッショナルセミナー 講師
25	松谷 ひろみ	9	10	島根県立平田高等学校	地域協働学習 講師
26	渡邊 克俊	1	29	島根県教育庁教育指導課	「医療と防災の現場から学ぼう」講演講師 (高校生対象)
27	渡邊 克俊	3	17	島根県立出雲高等学校	出雲高校プロフェッショナルセミナー 講師
28	荒木 さおり	9	5	松江西高等学校	介護職員初任者研修講座 講師
29	板持 智之	11	14	島根県立出雲高等学校	出雲高校プロフェッショナルセミナー 講師
30	板持 智之	12	10	島根県立出雲高等学校	出雲高校プロフェッショナルセミナー 講師
31	植田 恵	11	21	出雲市立川跡幼稚園	バースデイプロジェクト 講師
32	植田 恵	1	16	出雲市立北浜小学校	バースデイプロジェクト 講師
33	植田 恵	1	23	出雲市立塩冶幼稚園	バースデイプロジェクト 講師
34	植田 恵	1	23	出雲市立北陽小学校	バースデイプロジェクト 講師
35	植田 恵	2	5	出雲市立塩冶小学校	バースデイプロジェクト 講師
36	園山 純代	9	5	出雲市立第三中学校	福祉体験講座における看護体験 講師
37	多々納 浩	5~ 3		島根県教育庁保健体育課	運動部活動(高校生)の競技力向上事業におけるサポート、指導者向け研修等
38	多々納 浩	5	28	島根県立平田高等学校	地域協働学習 講師
39	多々納 浩	9	10	島根県立平田高等学校	地域協働学習 講師
40	並河 愛弓	7	4	奥出雲町立馬木小学校	バースデイプロジェクト 講師
41	並河 愛弓	7	31	浜山あまつひ保育園	バースデイプロジェクト 講師
42	日野 雅洋	5	28	島根県立平田高等学校	地域協働学習 講師
43	日野 雅洋	9	9	松江西高等学校	介護職員初任者研修講座 講師
44	日野 雅洋	9	10	島根県立平田高等学校	地域協働学習 講師
45	福田 詩織	5~ 3		島根県教育庁保健体育課	運動部活動(高校生)の競技力向上事業におけるサポート、指導者向け研修等
46	福田 詩織	10	29	島根県立浜田高等学校定時制・通信制支援協議会	食育講演会 講師
47	福田 詩織	11	13	大田市立第三中学校	地域医療・食に関する授業 講師
48	松岡 紗嘉	9	5	出雲市立第三中学校	福祉体験講座における看護体験 講師
49	松岡 紗嘉	11	13	大田市立第三中学校	地域医療・食に関する授業 講師
50	城市 朱夏	5~ 3		島根県教育庁保健体育課	運動部活動(高校生)の競技力向上事業におけるサポート、指導者向け研修等
51	城市 朱夏	5	28	島根県立平田高等学校	地域協働学習 講師
52	城市 朱夏	9	10	島根県立平田高等学校	地域協働学習 講師
53	中嶋 彩稀	5~ 3		島根県教育庁保健体育課	運動部活動(高校生)の競技力向上事業におけるサポート、指導者向け研修等

54	中嶋 彩稀	10	29	島根県立浜田高等学校定時制・通信制支援協議会	食育講演会 講師
55	中嶋 彩稀	11	13	大田市立第三中学校	地域医療・食に関する授業 講師

#### 4. 成果と課題

今年度は、高大連携による出前講座が 36 件、小中学校への出前講座が 15 件、幼稚園・保育園への出前講座が 4 件あった。昨年度より件数は減ったが、計 55 件の依頼があり、出前講義のニーズは高いことがうかがえる。このため、教員に過度な負担がかからないようにする必要がある。

## Ⅱ-1. 受託研究

### 1. 目的

自治体、関係団体、企業等からの受託研究についての依頼に対し、調整し、実施につなげる。

### 2. 事業内容

2024年度は、以下の研究を受託し、実施した。

表1 2024年度受託研究実施一覧

	委託者	研究題目	研究者代表者	受託金額(円)
1	島根県	ライフスタイルに適応した生産・販売を目的とする島根米の特性の見える化	籠橋 有紀子 教授	500,000
2	島根県	健康な食環境づくり事業	石田 千津恵 助教	253,000
3	株式会社しちだ・教育研究所	七田式いきいき脳開発プログラム事業	西本 亜希子 講師	135,626
4	浜田市共同研究	浜田市における孤立(孤独)死防止対策について	平井 由佳 准教授	289,649
5	益田市共同研究	萩・石見空港を利用したUniversal MaaSの推進	田原 啓子 准教授	459,844

### 3. 成果及び課題

今年度は昨年より1件増え、実施件数は5件だった。

今後も看護栄養交流センターのホームページの充実に努め、委託希望があれば対応を行う。

## I. 包括協定締結自治体との連携

### 1. 目的

包括協定を締結している自治体との連携を図ることにより、地域社会のニーズや課題に対応する事業を協働で企画・実施する。

### 2. 事業内容

包括連携協定を締結した自治体と連携協定に基づく具体的事業について、個別に協議しながら取り組みを展開する。自治体との協力について、具現化のために自治体側の意向調査や学内での聞き取り等を行い、合意に至った事業から順次実施する。

### 3. 事業実施状況

- 1) 出雲市と協働で久多美地区介護予防教室事業を行った。
- 2) 出雲子育て支援センター「はぐはぐ」を出雲キャンパス内に開設中。
- 3) 出雲市からの受託事業として、児童虐待防止推進研修事業を実施。
- 4) 関係自治体において、島根の地域医療フィールドワークや臨地実習、保健師インターンシップ等の受入れの協力を得た。

### 4. 成果

出雲市との協働事業については、「Ⅲ. 出雲市 児童虐待防止推進研修事業」および「Ⅱ－2. 共同事業：出雲市 久多美地区介護予防教室事業」参照。

### 5. 課題

出雲市と協働で実施している介護予防教室事業については、これまで数年間継続して実施している事業であり、認知度も上がり、成果も現れている。

コロナ禍において、なかなか自治体との連携事業も実施が困難な状況であったが、徐々に積極的な活動が展開できるようになった。

## II. 共同事業：出雲市 久多美地区介護予防教室事業（はやさめいきいき健康教室）

### 1. 目的

出雲市と島根県立大学出雲キャンパスとの協働により、高齢者の認知機能の維持改善や体力作りのみでなく、活動を通して地域での活動に関わる人材の育成、地域のネットワークづくりを図ることである。

### 2. 事業内容

期間：2024年5月22日～2025年3月31日

時間：9:30～11:30

業務受託の場所：久多美地区（久多美コミュニティーセンター）

関係機関：出雲市健康福祉部医療介護連携課

出雲キャンパス事業担当者：2名（松本玄智江、宮本拓実）

### 3. 事業実施状況

1) 事前調査・事後調査 事前調査：18名 事後調査：18名

教室開始時と終了時に体力測定（握力・歩行速度）、体組成（身長、体重、BIMなど）、骨密度、栄養状態（上腕周囲長・下腿周囲長）、社会関連指標、老研式活動能力指標、JST版活動量力指標、認知機能（HDS-R、MMST）などを測定した。

2) 介護予防教室 13回 毎回18～20名の参加

毎回の教室は、自己血圧測定、脳トレ、出雲いきいき体操、メインテーマ、終わりの会（懐かしの歌、出雲市からのお知らせなど）で構成した。メインテーマは、ミニ講話、お楽しみ企画を組み合わせ合わせて計画した。また、地元で活躍されている講師を招いた（おなじみ先生）企画を1回実施した。

### 4. 成果及び課題

久多美地区の65歳以上の高齢者にコミュニティセンターの広報を通して参加者募集を行った。その結果22名の参加登録者があり、継続的に参加された方は約20名（途中1名参加辞退、1名追加参加）であった。また、自己血圧測定やメインテーマについては希望を聞きながら設定したり、出雲市いきいき体操では参加者に体操リーダーになってもらったりすることで参加者の自主性を引き出すことができたのではないかと思われる。また、教室の後片付けや参加者同士が気持ちよく参加できるようにお互いに声が掛け合うなどの行動が増えていき、仲間同士の結束力につながったと思われる。初回のメインテーマでスマートフォンについてのミニ講義を計画し、その場でLINEグループを作成することができ、参加者同士の連絡や、お知らせ、欠席の連絡などに活用することができた。教室終了後には、参加されたほとんどの方が「はやさめいきいき健康教室」（久多美地区の教室の名称）として自主活動に継続参加されることとなった。今後も参加者の健康を支える活動になることが期待できる。



「認知症を理解しよう」講師：荒木さおり助教



参加者の皆さん

### Ⅲ. NPO 法人・関係団体・企業との連携：いずも産業未来博 2024 への出展

#### 1. 目的

島根県立大学出雲キャンパスでの教育，研究，地域貢献活動について紹介し，来場者に楽しみながら健康について考えていただく機会を提供する。

#### 2. 事業内容

いずも産業未来博実行委員会主催の「いずも産業未来博 2024」に出展した。

#### 3. 事業実施状況

- 1) 日 時：2024 年 11 月 9 日（土）・10 日（日） 10:00～16:00
- 2) 場 所：出雲ドーム（出雲市矢野町 999）
- 3) 参加者： 9 日（土）教職員 4 名，学生 4 名  
10 日（日）教職員 4 名，学生 4 名
- 4) 展示内容：「島根県立大学看 出雲キャンパス」として 1 ブース使用
  - 島根県立大学紹介 大学案内，各種リーフレット・パンフレット配布
  - 地域貢献活動 骨密度測定，体組成測定，血圧・SpO2 測定，オロリン体操 2 の上映
  - 学生の活動紹介 奥村 芽唯（学生自治会）
  - 研究 荒井恵美子准教授，澤幸子准教授，高橋梢子准教授・林健司准教授・荒木さおり助教・松本祐香助教，田原啓子准教授，中谷陽子准教授，小川智子講師，渡邊克俊講師，石田千津恵助教，園山純代助教の研究・地域活動掲示，
  - 配布 広報誌オロリン，大学案内（大学入学生募集要項），公開講座テーマ一覧，オロリン体操パンフレット，大学オリジナルクッキー

#### 4. 成果

- 1) 骨密度測定，体組成測定，血圧・SP02 測定は 2 日間で約 200 名に実施し，測定結果は用紙に記入して説明した。来場者の健康への意識を高めることができた。
- 2) 学生の活動や，教員の研究・地域活動のポスター掲示にて，本学の教育，研究，社会活動について普及することができた。
- 3) 学生ボランティアの来場者への対応は丁寧で，地域の方の健康に対する意識などの学びなどがあった。
- 4) 「あなたが選ぶ No. 1 ブース選挙」では，「教育・公的機関部門」において最優秀賞を受賞し，楯の贈呈をうけた。

#### 5. 課題

健康コーナーの計測器等の物品が多く，掲示物のコーナーに入るスペースの確保が困難であることがあった。来場者の中にはブース外から掲示物を見ている方もいたため，その都度，声掛けをしてブース内に入っていた。物品配置を考慮し，掲示物のコーナーへの導線を確保する必要がある。



#### IV. 各種審議会・委員会等への参加

##### 1. 目的・事業内容

教職員が各種審議会・委員等の委員活動を通して地域に貢献する。

##### 2. 事業実施状況

2024年度は全体で92件の各種審議会、委員会等へ所属し、活動を行った。

内訳は、表1のとおりである。

表1 2024年度に教員が参加した審議会・委員会の内訳

	依頼元機関	件数
1	医療機関等	5件
2	教育機関等	5件
3	自治体等	42件
4	職能団体等	23件
5	その他	17件
	合 計	92件

## I. キャンパスモニター会議

### 1. 目的

本キャンパスに対する地域住民の理解と連携を深め、地域に開かれたキャンパスをめざす。そのために、近隣地域よりモニターを募集し、本キャンパスの運営や事業、安全確保について意見や批評、情報を求め、今後の活動に反映することを目的とする。

### 2. 事業内容

出雲在住・在勤の住民9名にキャンパスモニターを委嘱した。本キャンパスの年間行事（公開講座など）に案内し、キャンパスモニター会議の開催により、本キャンパスに対する理解を深めてもらう機会とした。会議では、キャンパスの教育研究活動、学生生活に関する活動、地域貢献活動、について説明し、学生生活を送る上での安心・安全の確保や地域との連携、地域貢献等に関する意見交換を行う場とした。

### 3. 事業実施状況

- 1) 開催日時：2025年2月18日（火）14:00～15:35
- 2) 参加者：キャンパスモニター4名、副学長（兼 地域連携推進委員会委員長）、学部長、学生生活部長、事務部長、管理課長、学務課長、地域連携推進室長、地域連携推進委員会委員3名、計14名

### 4. 成果

キャンパスモニター9名中4名の参加があった。看護栄養学部の教育、学生生活、地域貢献に関する説明は、パワーポイントや配布資料を用いて行われた。事前にいただいた意見、会議の場での質問・意見に回答した。大学のさまざまな取り組みについて情報提供し、活発な意見交換の場となった。キャンパスモニターの募集は今年度で終了となるが、今回の意見や要望を今後の大学運営にいかしていく。

## I. タウンミーティング（隠岐・安来 高大社連携事業）

### 1. 目的

高校生に医療に携わる魅力を知ってもらうことを目的とし、①参加者が医療人になるプロセスがイメージできる、②参加者が医療人になった後の道がイメージできる、③保健医療スタッフが自分たちの仕事の意義を再認識できるの3つを目標に掲げ事業を行った。

### 2. 事業内容

高大社連携事業として、対象地域の病院医師と島根県立大学学長の基調講演、病院や行政の専門職によるパネルディスカッション、高校生によるグループワークを実施した。2025年度は隠岐と安来の2地域で開催した。

### 3. 事業実施状況

#### 1) 隠岐での高大社連携事業

- (1) 日 時：2024年5月19日（日）10:00～14:10
- (2) 場 所：隠岐島文化会館
- (3) 参加者：高校生22名，県大生6名

#### 2) 安来での高大社連携事業

- (1) 日 時：2024年12月15日（日）13:00～16:00
- (2) 場 所：安来商工会議所
- (3) 参加者：高校生8名，県大生3名



### 4. 成果

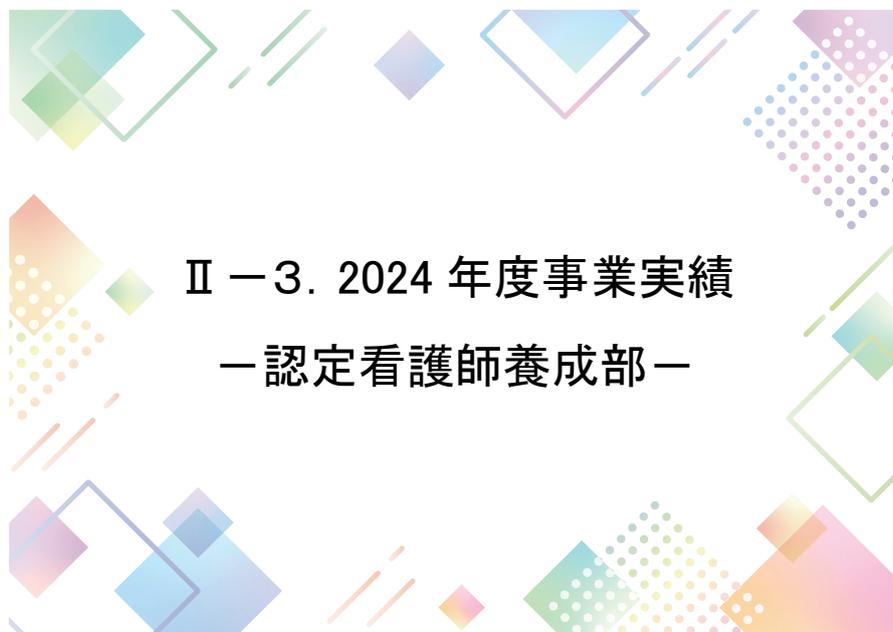
回収されたアンケートからは、参加者の満足度も高く、目標も達成されたと考える。パネラーの医療者の中には本学卒業生もおり、出身地の高校から、本学、そして出身地の就職へのルートもイメージしやすかったと考えられる。病院スタッフの協力も多く得られ、高校生も熱心に参加できていた。講演、パネルディスカッション、グループワークを通して、高校生が医療人のイメージの具体化や医療人を目指す進路決定の一助となった。

### 5. 課題

時間が超過する場面もあったが、時間調整しながら全てのプログラムを終えることができた。

高校側と時期の調整をして開催日を決定したが、応募が少なく関係機関に追加募集を依頼した経緯があった。高校生の参加しやすい時期の設定、魅力的なPR方法の検討、高校側との趣旨の確認などについての検討が必要である。





Ⅱ－3. 2024 年度事業実績  
－認定看護師養成部－

## I. フォローアップ研修に関すること

### 1. 目的

それぞれの看護専門分野において、熟練した看護技術と知識を用いた水準の高い看護実践のできる認定看護師に必要なスキルアップを図る。

### 2. 事業内容

認定看護師のスキルアップに必要なフォローアップ研修のプロジェクト会議を開催し、修了生等との連絡調整を行いながら、研修の企画運営を行う。

### 3. 事業実施状況

1) フォローアップ研修に関するプロジェクト会議（対面・Web・メール）を開催した。

修了生研修運営メンバーと、緩和ケア/認知症看護認定看護師のスキルアップに必要な研修テーマの選定、企画案作成、開催時期について協議を行った。

2) 本課程修了生（緩和ケア分野/認知症看護分野）及び島根県内で活動している緩和ケア/認知症看護認定看護師を対象とした「2024年度フォローアップ研修」を開催した。

日時：2024年10月19日（土）10:00～15:30

会場：島根県立大学出雲キャンパス 5号館1階 中講義室

参加者：42名（修了生：緩和ケア分野（17名）/認知症看護分野（19名）、島根県内で活動している緩和ケア認定看護師（1名）/認知症看護認定看護師（5名）

テーマ：「認知症の進行に伴う認知症の人への緩和ケア」

～身体合併症（摂食障害・疼痛）のベストプラクティス～

内容：提供事例をもとに、両分野の専門的視点でベストプラクティスをグループ討議し、その後グループ間でもベストプラクティスを共有した。

3) 終了後アンケートにて、「学びを活かせるか」と「今後の研修会の在り方」について意見を収集した。

4) 修了生によるフォローアップ研修の企画・運営に関するサポートを実施した。

### 4. 成果

認知症者の患う摂食障害・疼痛には様々な苦痛が伴う。参加者からは、両分野の専門性を活かした意見交換によって新たな知見を得ることができたとの意見が多く聞かれた。アンケート結果から、学びを実践に活かせるとの回答（100～97%）が寄せられ、満足度の高い研修となった。

### 5. 課題

修了生が研修の企画・運営の一部を担う事も認定看護師に必要なスキルのひとつと位置づけている。認定看護師が質を担保しながら活動し続けるためにも研修会のニーズは確認できた。しかし、両分野に共通する課題選定の難しさや、企画・準備段階で各期修了生からの協力を得にくいことが課題として挙げられた。引き続き、看護の専門性とその質の維持・向上を目指していけるよう、また修了生にとって、過度な負担なく企画・運営力の向上の機会となるようフォローアップ体制の整備・継続をしていく。



## I. 教育課程運営に関すること

### 1. 目的

感染管理分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践のできる感染管理認定看護師を育成する教育課程を開講する。

### 2. 事業内容

島根県の委託を受け、感染管理認定看護師養成の教育課程運営会議を開催し、島根県や臨地実習施設等との連絡調整を行いながら、感染管理認定看護師に必要な教育課程の円滑な運営を行う。

### 3. 事業実施状況

#### 1) 教育課程の開講と実施

開 講：2024年4月2日（火）～2025年3月28日（金）

時間数：共通科目 380時間

専門科目 認定看護分野専門科目 195時間・特定行為区分 61時間

演習・実習 195時間

総時間数 831時間

- |                          |              |
|--------------------------|--------------|
| • 2024年4月5日（金）           | 入学式          |
| • 2024年8月19日（月）～9月20日（金） | 特定行為実習       |
| • 2025年1月8日（水）～2月6日（木）   | 臨地実習（感染管理分野） |
| • 2025年2月21日（金）          | 事例発表会        |
| • 2025年3月28日（金）          | 修了式          |



2) 運営会議を11回開催した（5月～3月）。

3) 臨地実習および特定行為実習に関する施設訪問（臨地実習：6施設、特定行為実習：8施設）を行った。また、臨地実習指導者会議を2回行った（12月6日、2月21日）。

- 4) 教員会を1回開催した(3月17日)。
- 5) 2023年度修了生のフォローアップ研修を4回行った(5月24日, 6月25日, 7月18日, 9月10日)。

#### 4. 成果

- 1) 認定看護師教育課程(B課程)・感染管理分野第1期生の17名(県内14名, 県外3名)が, 日本看護協会 第32回認定看護師認定審査を受け, 修了生17名全員が合格した。
- 2) 認定看護師教育課程(B課程)・感染管理分野第2期生の12名(県内9名, 県外3名)を輩出した。県内外から多くの医師, 看護師, 行政関係者等に講師になっていただくことで, 相互に学び合う機会となった。

#### 5. 課題

本教育課程における感染管理分野は, 2024年度をもって休講になった。2024年度の修了生が, 日本看護協会の認定審査に合格し, 資格取得ができるよう修了生のフォローアップを行っていくことが重要である。





### Ⅲ.資料

### Ⅲ. 資料

#### 1. 事業に関する報道資料一覧

No.	掲載紙/発行日/掲載面	掲載内容
1	島根日日新聞/4月8日/3面	健康テーマに全8講座 「2024年度いずも健康市民大学」の受講生募集
2	山陰中央新報/6月4日/19面 島根日日新聞/6月5日/1面	医療の研究推進 連携協定を締結 島根県立大と全国健康保険協会
3	島根日日新聞/8月3日/2面 山陰中央新報 りびえーる/8月11日/15面	18日に「ごはん de まめフェス」 県立大生ら栄養をサポート
4	島根日日新聞/8月14日/1面	酒かすから“しっとり美容液” 県立大と台雲酒造が共同開発した美容液「台雲美」の完成披露記者発表会が行われた
5	山陰中央新報/9月6日/22面	子ども食堂と学生つなぐ 栄養学科生 学び活かし支援
6	島根日日新聞/9月24日/1面	子ども虐待防止体制を考える 恵泉学園大学 高橋睦子教授が講演
7	島根日日新聞/1月1日/14面	酒粕の美容効果 活用 美容液「台雲美」島根県立大学が民間と共同開発
8	山陰中央新報/2月1日/20面 島根日日新聞/2月1日/1面	健康栄養学科学生が出雲産抹茶を使ったスイーツをローソンと共同開発
9	島根日日新聞/3月29日/1面	感染管理認定看護師へ期待 県立大出雲で12人が修了
10	山陰中央新報/3月31日/22面	山陰の干物もっと食べて 出雲・島根県立大生開発 調理不要オイル漬け

## 島根県立大学出雲キャンパス看護栄養交流センター組織運営規程

平成 25 年 10 月 1 日  
島根県立大学規程第 1 1 1 号

(趣旨)

**第1条** この規程は、公立大学法人島根県立大学組織規則第 38 条に規定する、看護栄養交流センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

**第2条** センターは、島根県内及び近隣地域の保健・医療・福祉の各施設、行政機関、教育機関等と連携し、保健師、助産師、看護師、管理栄養士、栄養士等の資質の向上に資する専門知識や技術の教授、研究活動に対する支援、研究成果等の情報収集及び発信を行うとともに、看護学・栄養学の教育研究活動を通して得られた成果を広く地域社会に還元することを目的とする。

(組織)

**第3条** センターの目的を果たすため、センターに次の部を置く。

- (1) キャリア・研究支援部
- (2) 地域連携推進部
- (3) 認定看護師養成部

2 前項に規定する部にプロジェクトを配し、部の具体的な事業を展開する。

(職員)

**第4条** センターは、出雲キャンパスに所属する全ての教職員を構成員とする。

2 センターに、センター長のほか次に掲げる職員を置く。

- (1) 前条第 1 項各号に掲げる部の部長（以下「部長」という。）
- (2) 前条第 2 項に規定するプロジェクトのプロジェクトリーダー（以下「プロジェクトリーダー」という。）

(部長)

**第5条** 部長は、第 3 条第 1 項各号の部の業務を掌理する。

2 部長は、出雲キャンパス教員の中から、学長がセンター長と協議の上、決定する。

3 任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(プロジェクトリーダー)

**第6条** プロジェクトリーダーは、第 3 条第 2 項に規定するプロジェクトで展開する事業を推進する。

2 プロジェクトリーダーは、出雲キャンパス教員の中から、センター長が部長と協議の上、決定する。

3 任期は 2 年とし、再任を妨げない。

(運営会議)

**第7条** センターに、センター運営会議（以下「運営会議」という。）を置き、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの運営に関する事。
  - (2) 事業計画の策定及び進行管理に関する事。
  - (3) その他センターの運営に必要な事。
- 2 運営会議は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 副学長
  - (2) 看護栄養学部長
  - (3) 看護学科長
  - (4) 健康栄養学科長
  - (5) 別科長
  - (6) センター長
  - (7) 部長
  - (8) 島根県立大学出雲キャンパス合同会議専門委員会規程別表1に規定する地域連携推進委員会委員
  - (9) 事務部長
  - (10) 管理課長
  - (11) 教務学生課長
  - (12) 事務部職員
- 3 運営会議はセンター長が招集し、センター長は議長となる。
  - 4 センター長に事故があるときは、センター長があらかじめ指名した者がその職務を代行する。
  - 5 運営会議は、構成員の2分の1以上の出席により成立し、出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところによる。
  - 6 議長は、運営会議の構成員以外の本学の教職員又は外部有識者を運営会議に出席させて説明を求め、又は意見を述べさせることができる。  
(外部委員会)

**第8条** センターの業務に関し、調査審議を行うため、外部委員会を置く。

- 2 外部委員会は、原則として毎年1回以上開催する。
- 3 外部委員会の委員（以下「外部委員」という。）は、出雲キャンパス運営委員会で選考し、学長が委嘱する。
- 4 外部委員は、10名以内とする。
- 5 外部委員会に関し必要な事項は、学長が別に定める。

**第9条** この規程に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成25年10月1日から施行する。
- 2 第5条第3項、第6条第3項の規定に関わらず、この規程の施行日に部長、プロジェクトリーダーとなった者の任期は、平成27年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年5月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

2024年度 看護栄養交流センター成果報告書（第6号）

編集・発行 2025年3月  
島根県立大学出雲キャンパス 看護栄養交流センター  
〒693-8550 島根県出雲市西林木町151番地  
TEL 0853-20-0200 FAX 0853-20-0201  
[https://izumo.u-shimane.ac.jp/community/izumo/  
koryucenter/](https://izumo.u-shimane.ac.jp/community/izumo/koryucenter/)

